

「教育活動評価」結果に見る考察

1. 学校運営について

1) 調理科

・保護者と生徒の満足度に違いがあり、高いレベルで同等になるようにしたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

・保護者は各項目とも高い水準で良いと考えているようだ。生徒は、学習環境、相談・助言において、「あまり当てはまらない」の回答が多い。施設の老朽化等の影響が見られるものと思われる。

3) 普通科情報表現コース

・生徒の「学習環境の整備について」がやや低く、生徒、保護者の「相談・助言について」はやや高かった。これまで通り個別の対応をこまめにしていくとともに、今後は学習環境の整備に努めていきたい。

4) 普通科デザインアートコース

・興味、関心が多く、自分たちの活動に必要な情報内容などは学校の通信だよりを活用している。保護者からの満足度が高かった。

5) 普通科総合コース

全体的な傾向は大きくは変わらないが、いくつか全体と違う項目がある。

・「学校の通信便り」については、全体と比べて保護者の評価が高い。やはり学校の様子を知りたがっている保護者が多いためコース通信やクラス通信を読んでいるためだと思う。また各クラスにおいて精力的にクラス通信を発行していることも関係していると思われる。そして生徒は予想以上に家庭に持ち帰っているかもしれない。

・「学習環境の整備」の生徒の評価が全体より低いのが気にかかる。

・「指導助言」の保護者の割合が比較的高い。電話連絡や保護者面談を多く実施して、生徒理解を重視していることの表れだと思われる。

6) 普通科健康スポーツコース

・相談・助言の回答から、生徒と関わる時間が足りていない。改善するには生徒と関わる場面をつくる必要がある。例えば週の1, 2回は教室で昼食をとるなど、コミュニケーションの時間をつくる、距離を近づけることのきっかけを教員側からしなくてはならないと考える。

7) 進路指導部

・②学校の通信だよりなどについての項目で、保護者からの評価が高い。科コース、分掌からの便りが家庭に届いている評価だと思う。進路指導部でも、今後も発信していきたい。

・⑥相談・助言については、「開かれた」雰囲気作りを工夫することで、進路決定の後押しをしたい。

8) 生活指導部

・④安全安心の意識において、生徒の評価が低かった。変質者が数多く出没し、解決には至っていないことが原因として考えられる。

・⑤「学校生活のアンケート」を実施し、結果をもとに面談行うなど生徒には取り組みが浸透しつつあるが、保護者の理解までは至っていない。

・⑥生徒の相談・助言に対する評価が低い。生活指導部として相談しやすい環境の整備を他分掌と連携を図っていく必要性を感じる。

9) 募集業務部

- ・昨年と比較して、大きな変化は見られないが、学校スローガン実現に向けての取り組み意識が向上している。
- ・②学校からの通信については保護者からの評価が今年度も高い。こまめな発信は今後も重要だ。
- ・⑤いじめ、暴力のない学校づくりへの取り組みについて昨年よりも若干低い数値になった。昨今の社会問題にもなっており、保護者の協力も得ながら教育相談や面談等をタイミングよくおこなっていく必要があると思う。「目と手をかける学校」「面倒見のよい学校」としてこれまで以上に社会に評価される学校を目指したい。

10) 総務部

- ・④安全安心の意識について、生徒および教職員の意識に低下がみられた。保護者に関しては、昨年度とほぼ同様の回答となっている。震災から月日が経つにつれてそれぞれの意識が薄れていくことが推測される。個人やご家庭または地域など災害に対する意識や備えの再確認を毎年行うことが必要と感じる。学校として、災害発生時の体制が整ったので、細かな部分について協議し調整していくことが今後の課題と考える。

11) 保健厚生係

- ・学習環境の整備について生徒全体では、半数が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答し、特に介護・健スポで10%ほど昨年比意識が低下している。保護者、教員については、昨年とほぼ同様に70%強が意識していた。
- ・いじめ・暴力のない学校づくりでは、生徒の75%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答しているが、昨年比低下傾向にある。特に調理・情報で10%ほど低下していた。
- ・相談・助言について、40%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答し、昨年比低下5%している。しかし、情報・総合では、やや増加している。

2. 4つの重点目標について

1) 調理科

- ・よい評価のレベルが保護者と生徒で違いが大きい。生徒のよい評価も保護者と同等になるようにしたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・保護者はどの項目も6割以上で良いと回答している。生徒は、キャリア教育と定期考査の取り組みがあまり良くないと回答している。常日頃から専門性の高い学習を行っていることから、キャリア教育という視点が低いと考えられる。

3) 普通科情報表現コース

- ・生徒、保護者の「定期考査への取り組みについて」「部活動について」「部活動の環境整備について」がやや低く、「各種検定・資格について」が高かった。生徒の実態、コースの特性に沿った結果といえる。

4) 普通科デザインアートコース

- ・わかりやすい授業内容と学習環境に満足しているようだ。授業、実習の準備を整え、特に専門科目に取り組み満足度は高いと思われる。

5) 普通科総合コース

- ・学校運営同様、全体集計より「当てはまる・少し当てはまる」の割合がやや少ない項目がいくつかあるが、特に授業内容に関する項目の割合が低い。授業に対する意識づけがより一層求められているのかもしれない。
- ・また生活全般もやや低くなっているのは、一応自覚はしており、改善しようという意識はある

と思われる。

- ・朝読書や定期考査に対しての意識が全体よりやや低い。
- ・欠席遅刻と礼儀作法生活マナーの「当てはまる・少し当てはまる」は全体よりやや低い。自覚はしているようだ。
- ・各種検定資格は全体とほぼ同様の結果であるが、コースの特徴からするともっと自覚を持ってほしいところであり、啓蒙活動をより強化する必要がある。
- ・部活動に対しての意識は低い。活動人数が少ないためであろう。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・生徒は、回答結果から、落ち着いて学校生活を送っていることがわかる。保護者の回答は、学校生活全般に「わからない」が多く、改善のためコース・学級通信の発行を増やすことが必要と考える。

7) 教務部

- ・今年度は「わかる授業」のイメージを具体的にし、実践するところまでを今年の目標としたが、そこまで行きつくことができなかった。学校評価アンケートからも「わかる授業」について生徒の満足度が低かったことから来年度は最優先課題と考える。ICTの活用と学習規律や授業展開のユニバーサルデザインやグループワークなどのアクティブラーニングを取り入れた授業、この3つを柱として今から準備を進めていきたいと考えている。

さて、今年の実績としては5点上げられます。1点目、朝学習の通年実施である。これは学校評価アンケートから生徒たちに受け入れられていることがわかった。来年度はフィードバックに力を入れ、確認テストや補習などを行い、知識の定着のための方策を検討したいと考えている。2点目として挙げられるのは「教務業務の見える化」である。定期考査に関する教務の業務のt o o d o リストを作成し、考査準備に漏れないようにした。その他、定期考査マニュアル、成績入力マニュアル、公認願いを作成し、いろいろな動きの「見える化」を促進した。担当している一人だけがわかるというのではなく、誰もができる状況が望ましいと考えているからである。3点目、ベル着を促進するために、始業チャイムを変更しました。次のステップとして授業の準備ができるようになることである。

4点目、互見授業を実施した。通常の授業を見あうことで、自己の授業を振り返り、取り入れてみるといった試みを行いやすいのではないかと感じる。生徒たちが「わかる」と感じ、食いついてくる授業は、案外身近にあるとも思う。

5点目、当たり前10か条である。重点目標に掲げたように「当たり前のことが当たり前でできていますか?という問いかけである。10個の項目は昨年度と同じものにした。1ヶ月ほどで区切って、3枚出来上がることになるが、今集計中です。結果はクラスによってかなり温度差があり、「そんなこと」という声が聞こえてくるが、果たして生徒たちできているだろうか?必ずしもそうではないとは思っている。何れ部内で検討し来年度の形を作りたいと思う。

8) 進路指導部

- ・⑭各種検定、資格については、保護者や教員が思うほど生徒たちの満足度は高くない。受験の奨励だけでなく、合格させて自信を持たせる動きを充実させたい。
- ・⑮キャリア教育は8割以上の教員が肯定的な答えであり、日々の教育活動の中で計画的に取り組んでいることがうかがえる。保護者からも認めていただけているようだが、あまり生徒は実感していない。当事者が感じられる指導を工夫したい。
- ・⑯インターンシップ・進路ガイダンス等への参加については、こちらの働きかけを保護者から高く評価されている。ますます発展させていきたい。

9) 生徒指導部

・部活動について、意欲的に参加できた生徒は5割強であるが、保護者・教職員は7割前後であり、温度差があった。科コース間でバラつきがあるのがここ数年この傾向である。毎週木曜日に「部活動の日」を設定しており。加入率はここ数年8割台を維持している。部活動を通じてリーダーの養成を取り組んでいきたい。また、科コースの枠を超えての仲間意識を高める取り組みが必要と考えている。

10) 生活指導部

・⑪⑫⑬共通：指導の甘さを生徒に感じ取られている。遅刻カードでの指導徹底や「制服の着こなしについて」のルール一覧をもとに、学校全体で取り組む必要がある。

11) 募集業務部

・朝読書、朝学習の取り組みもだいぶ定着してきているものの、わかりやすい授業内容への満足度で生徒の数値が若干下がっている。定期考査前に校内で自学自習する光景がよく見られるようになり、よい傾向であるので、引き続き基礎・基本を中心としたわかりやすい授業の展開を心がけたい。生活面では教職員の熱心な取り組みに理解を示す回答が多く、今後も一丸となって指導を継続するとよい。

3. 学校諸活動について

1) 調理科

・楽しみがあると思えそうな行事は満足が高い。更にこの満足度を伸ばしていきたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

・様々な行事に対して、生徒は積極的に参加しており、満足度は高い。

3) 普通科情報表現コース

・全体的に生徒の評価が低い傾向にある。各行事への働きかけを徹底し、より積極的に諸活動に取り組ませていきたい。

4) 普通科デザインアートコース

・学校行事の学園祭、体育祭やコースの行事等に意欲的に参加し、成果を上げている。保護者も協力的で満足度が高い。

5) 普通科総合コース

・全体集計より「当てはまる・少し当てはまる」の割合がやや少ない項目がいくつかある。学園祭・体育祭と遠足修学旅行の「当てはまる・少し当てはまる」が全体よりやや低いのは「もっと積極的に参加しなければ」という自分への反省があるのかもしれない。

6) 普通科健康スポーツコース

・放課、土・日は部活動に取り組み、生徒会、ボランティアなどの諸活動の時間がないのが現状である。

8) 進路指導部

・学校行事や部活動に積極的に参加することは、自己PRの一助ともなり、望ましい。漫然と毎日を過ごすのではなく、ひとつでも「高校生活で頑張ったこと」を答えられる生徒を増やしたい。

7) 生徒指導部

・学園祭や体育祭、合唱とアンサンブル等行事に意欲的に楽しく参加できた生徒は、7割であった。体育祭では、「明仙フィールド川平」活用3年目になり、生徒会本部や実行委員のアイデアで昨年同様に盛況であった。学園祭では、「明成ショータイム」や閉会式を全生徒一同に体育館で実施し、吹奏楽部の演奏に合わせ全校合唱を行うなどの一体感を出す取り組みを行った。今後も生徒の声を積極的に取り入れ、一体となって行事に取り組める工夫を凝らしていきたい。

・ボランティア活動については震災から時間を経るごとに減少しており、できたと回答した生徒は3割強にとどまった。活動実績として、5月「岩沼市千年希望の丘防潮堤植樹」、5月「ネパール地震救援募金」、10月「東北子ども博覧会運営ボランティア(仙台大学等主催)」、2月「台湾南部救援募金」をあげられる。地道に継続して実施していくことが必要と考えている。

8) 募集業務部

・行事に参加して充実した高校生活を送っている様子が伝わった。合唱とアンサンブルの集いや、科コースの取り組みも披露できる学園祭など、本校の素晴らしい取り組みを広く校外にPRしていきたい。

10) 生活指導部

・⑱HR活動や生徒会活動において校内の問題を提起し、生徒が主体的に取り組めるように喚起を促す必要性を感じる。

4. 高大連携について

1) 調理科

・数字とは別に、進学する数は少し前より俄然増えているので、学科の進学に関する指導は成果が上がっている。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

・仙台大学との連携については、もう少し積極的な取り組みが必要と考える。

3) 普通科情報表現コース

・さらに高大連携を意識した活動を推進していきたい。

4) 普通科デザインアートコース

・理解度が少ない。

5) 普通科健康スポーツコース

・大学施設であるATルームでは、コンディショニングのアドバイスやトレーニング・リハビリの指導により、安心して競技に打ち込める環境と連携がとられている。しかし、生徒が理解して利用していない。

6) 進路指導部

・仙台大学への進学を目標にして入学する生徒が多くなっているが、具体的に動き出すのは、ほとんどの場合3年次7月末の見学会が最初ようだ。健康スポーツコースでは、総合的な学習の時間や部活動などで大学を訪問する機会があるものの、他の科コースでの関わりは十分とは言えない。

7) 生徒指導部

・4月開催の「新入生研修合宿」では、毎年仙台大学高崎先生と学生ボランティアの協力をいただき、仲間づくりの一助となるレクレーションを指導していただいている。参加生徒アンケートによると、姉妹校である仙台大学への理解はもちろん、大学生活への憧れから進学を意識する生徒もいる。

・10月開催の「東北子ども博覧会」では、仙台大学学生とともに運営ボランティアに本校生徒が多数参加した。子どもの世話中心の活動であるが、大学生と一緒に活動することによって、多くのことを学んでいる。

8) 募集業務部

・生徒は2割、保護者も5割程度しか仙台大学との関わりを感じていないようだ。高大連携教育と特別推薦入学枠について、継続して発信に力を入れたい。また、今年は合唱とアンサンブルの集いに仙台大学新体操競技部に吹奏楽部と共演していただいた。運動面に限らず文化面でも交

流促進させていけたらと考えている。

5. 家庭生活について

1) 調理科

・中学時まで学力の代わりに「手に職つけて」と植え付けられ入学する学科のイメージを払拭することで改善されていく。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

・家庭学習はほとんどしていない結果となった。習慣化させる取り組みが必要である。

3) 普通科情報表現コース

・保護者の「家庭学習の習慣について」がやや低い。保護者として子の学習習慣をシビアにみている様子が感じられる。

4) 普通科デザインアートコース

・学校と家庭との連絡も密に取れ、基本的な生活習慣は身につけている。

5) 普通科総合コース

・基本的な生活習慣の生徒の「当てはまる・少し当てはまる」が全体集計より低い。「欠席遅刻と礼儀作法生活マナー」ほど全体より低くはないのは、改善しようと努力をしているのかもしれない。また保護者の「当てはまる・少し当てはまる」が全体より高いのは、保護者も自覚して努力をしているのかもしれない。

・家庭学習に関しては生徒と保護者両方とも全体集計よりかなり低い。学習不足は明らかである。

6) 普通科健康スポーツコース

・「当てはまる」が30%以下であることから、生徒は将来や進路のために家庭学習は必要だと理解しているが、習慣化していない。「自主学習ノート」であくまでも自主性として始めたが継続率は低かった。生徒自身は家庭学習が必要と考えていることから、今の明成生の現状をとらえるのと強制的なプログラムにのせても良いのではないか。

・生活習慣の「当てはまる」が60%という数字はスポーツマンとして非常に残念である。また、保護者の80%から20ポイントダウンは一人になるプライベートな時間に深夜までのスマホ利用など就寝時間の遅れと考えられる。携帯依存は、スポーツアスリートにとって「百害あって一利無し」。スポーツ、部活動を行ううえでトレーニング以上に生活習慣が大切であることの理解を深め90%以上を目標としたい。

7) 進路指導部

・進路動向調査の結果から見ても、家庭学習の時間は不足しており、学年が上がるごとに「まったく勉強しない」が増えている。漢字が書けない、課題に取り組まず期限が守れないなどの問題は、進路決定においても応募書類の書き方だけでなく提出が遅れるという事態を引き起こす。日頃の積み重ねの大切さを教えていくべきである。

8) 募集業務部

・昨年と同様の結果である。保護者の協力もいただきながら、家庭学習の習慣を身につけさせそれぞれの希望進路実現に結びつけたい。